

ある日の育児日記から

(69)

佐藤 和代



子どもにとって、一音節の言葉というのは難しいのでしょうか。うちの子は二人そろって「蚊」という言葉を覚え間違えたのですが。
 圭はこれを、「かが」と覚えてしまった。「蚊がきた」「蚊が刺した」の「かが」です。で、「あ、またかがだ」なんて言うので「ちがうよ、蚊、がきたの」「かが、きた」「ちがうって、蚊、なの」説明している私の頭もこんがらがる。「蚊」と理解したのは五歳くらいかな。
 今は四歳の有が同じ経過をたどっています。有は「かに」と覚えてしまった。「蚊に刺された」

の「かに」。今度は私より圭がやっきになって「かにじゃない、蚊、に刺されるんだよ」「かに、さされるんでしょ」「ちがう、蚊、が刺すの」「かにが、刺す」圭はだんだんいらいらしてくる。親は何だか「かに」というのがかわいくて、放っていますけど。同じような間違いを二人そろってするというのは多少普遍的要素があるのかな。「おてて」「おめ」なんて幼児言葉も小さい子には「手」「目」では短すぎて覚えにくいから自然にできたのでしょうか。
 とここでこの前、神社の前を通ったら、有が言いました。「ここ行きたくない。いかがいるんだ」。いか? 何か間違えてないか?



保育園指定の手拭リマント。アフリケフケヒラ不評ぞ...